

教育長―「慎重にしないとイケない」と答える

靖国史観に沿った教材DVD「誇り」問題で申入れ

日本共産党県議団と県委員会は6日、日本青年会議所が作成したDVD教材「誇り」について、山口利幸県教育長と直接会い要請と懇談をしました。

文部科学省は「新教育システム開発プログラム事業」のなかで、日本青年会議所が作成したDVD「誇り」を教材として採用し、全国の学校ではすでに授業を行っています。

このDVDの内容は、日本の侵略戦争を「大東亜戦争」と呼び、植民地支配を「道路を整備し、学校を設置しただけ」というだけで、侵略・加害の歴史には触れていません。靖国神社の遊就館が展示している内容と基本的には同じ内容で編集されています。

伊吹文明文部科学大臣も、採用した責任には触れなかったものの、「私が校長なら使わない」と国会答弁した教材です。

今回の申入れでは、この「誇り」を県下の学校現場に持ち込まないよう徹底すること、文部科学省に教材として採択したことを撤回するよう求めました。応じた山口教育長は、「こういう中身なら慎重にしないとイケない」と答えました。

村井知事に浅川、雇用、医療など 7項目の県政要望を申入れ

「同和問題だけ個別にとりあげない」と村井知事

また同日、村井仁知事には浅川河川整備計画や雇用問題、医師不足対策、人権問題など7項目の申入れを行いました。

浅川河川整備計画のなかに、ダムはやめて遊水地の設置や千曲川の抜本的改修を盛り込むよう求めた要望には、「(ダム建設の)技術的に自信をもっている。」と建設推進の姿勢を示しました。

佐久地方で同和問題の県民意見交換会が知事出席で開催された際、部落解放同盟が中心となって「同和行政・教育」の復活を求める声のでた問題で、あらゆる人権問題に対応することとし、同和問題だけを特別扱いしないよう要望したことには、「その(同和)問題だけ個別にとりあげない」と答えました。

浅川ダム、コムスン問題など、県民生活にとって重要な争点が論議される

6月県議会は、6月21日から7月9日まで開かれます。